



博士(総合政策)、サステナビリティ消費者会議代表
古谷 由紀子氏

プロフィール

- 博士(総合政策)、サステナビリティ消費者会議代表、中央大学経済研究所客員研究員(2019年～)。(一財)CSOネットワーク代表。
- 企業の品質、コンプライアンス、デジタルトラスト、サステナビリティ等委員会の社外委員
- 消費者庁、総務省、経済産業省等の審議会や検討会に参加。
- 主な著作物には、
「消費者志向の経営戦略」芙蓉書房出版(2010年)、
「現代の消費者主権」芙蓉書房出版(2017年)、
「企業の消費者教育の意義と責任」日本経営倫理学会(2017年)、
「『持続可能な消費』を進めるために」企業と社会フォーラム(2017年)など

新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会・経済を一変させました。今年の社会・環境報告書では、貴グループが、事業構造の転換、社会・環境活動に引き続きの注力、行動規範と紐づけたSDGsに貢献する取り組み、そして、全工場でFSSC22000の認証を取得し、安全・安心でおいしい商品への努力の継続などを確認しました。これらの取り組みに関連して、貴グループの社会・環境課題への取り組みについてコメントいたします。

コロナ禍の事業構造の転換について

貴グループではコロナ禍による市場構造の変化を受け、従来、重点テーマとしてきた「健康・簡便・個食」の「3K」ニーズから、「健康・簡便・高品質・経済性・買い置き」の「5K」を新たなニーズとして捉え直しています。コロナ禍による消費者の暮らしの変化は商品ニーズの変化を生み、その対応は消費者にとっては望ましいものですが、消費者の暮らしの変化は商品ニーズのみにとどまりません。たとえば、在宅での食事が増えると、健康に配慮した食事の仕方やメニューづくり、保存や廃棄の問題、食品ロスの増加などが起きます。そこで商品のニーズの変化のみならず、背景にある暮らしの変化に伴って発生する「困りごと」への対応が必要ではないでしょうか。これらの取り組みは、貴グループの事業構造の転換を強固なものにしていけると考えられます。

シマダヤグループ行動規範に沿ったSDGsの取り組みについて

これまで継続して社会・環境活動にも取り組まれています。今年は事業活動のなかでSDGsへの貢献を行動規範と紐づけて

整理しています。これらは従業員の日々の主体的活動の目安にもなり、SDGsの取り組みが事業のなかで確実に進展していくことになるでしょう。

次の段階として、貴グループが重点的に取り組まれるSDGs、またその背景にある問題の現状や意義、さらにはそれがどのような変化を生んだかなどを示していくことでより効果的で信頼される取り組みになると思います。

持続可能な社会に向けた、さらなる取り組みへの期待

貴グループでは、さまざまな社会・環境課題、たとえばプラスチックの使用削減、省エネ・省資源などに取り組み、大きな成果をあげていますが、世界では脱プラスチックや気候変動への具体的対策への動きが加速しています。SDGsの目標13は「気候変動に具体的対策を」となっています。このような社会・環境における問題の本質的な理解・実践や世界の動向にも注目して取り組むことが期待されます。

また、持続可能な社会に向けた取り組みは企業のみならず消費者もまた当事者として重要であり、企業として消費者の持続可能な消費を促進する活動を期待します。

第三者意見を受けて

古谷様には、今年も貴重なご意見を頂き厚く御礼申し上げます。2019年度はシマダヤグループ中期経営計画第2ステージの3か年に合わせ、1年目の中期環境目的・目標の達成に取り組み進捗させてまいりました。年度末からは新型コロナウイルスによる全世界への感染影響が急速に大きくなり、当然のごとく当社グループの事業活動はこのコロナ禍による今後の大きな変化に向き合っているかねばなりません。ご指摘の通り「困りごと」への対応可能となる事業構造の転換も進めなければならぬと認識しております。この厳しい環境下において今期も「安全・安心」でおいしい商品をお届けするために社会・環境活動に取り組んでまいりますが、本報告書にありますように「シマダヤグループ行動規範」をSDGsと関連付けて意識した活動により、持続可能な社会に向けた取り組みをステークホルダーの皆様と向き合って進めていきたいと考えております。



シマダヤ株式会社
専務取締役 人事総務部長
(環境管理責任者)
相馬 紳一郎